

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況 (2) 地域活性化総合特区 ② ライフ分野(2/10)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
ふじのくに先端医療総合特区 (静岡県)	4.1	4.0 進捗度 ・がん診断装置・診断薬の開発 100% ・その他医療関連製品の開発 150% ・医療機器生産金額(県内) 48% ・製造業等の企業立地件数 83%	4.0 規制の特例等 ・国内品質業務運営責任者の資格要件について等 財政支援等 ・医療機器等開発・参入支援事業 総合特区支援利子補給金 地域独自の取組 ・沼津高等専攻科「医療福祉機器開発工学コース」の開設等	4.2	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹施設である静岡がんセンターのパフォーマンスを活かし、初期に設定された複数の目標を高率に達成していると考えられる。 ・様々な規模の企業が集積し、基礎研究から薬事承認まで開発プロセス全体をサポートする体制が構築された結果、医療関連製品の開発が進んでいることが評価できる。 ・日本人がんゲノムデータベースについても、海外に依存する部分も大きいがん遺伝子パネル検査の結果評価を国内で完結できる点で評価できる。 ・2021年度開学した社会健康医学大学院大学との連携により、技術開発の公衆衛生面での影響の評価なども今後期待できるのではないかと。 ・規制特例の参入要件緩和や認定講習による地道な効果が継続されているとともに、新たにゲノム解析の領域での飛躍も期待できる。 ・規制の特例措置を活用した医療健康分野への新規参入促進および当該分野の人材育成の取組には、両者の間に好循環が生まれており、今後の更なる成果が期待できる。 ・認定看護師教育プログラムの移動、F-metなどの取組は評価すべきである。地域独自の取組のうち財政支援措置、税制支援措置なども数多く活用されている。 ・認定看護師教育課程をファルマバレーセンターにおいたことによる具体的な効果はどのようなものか、また、静岡がんセンターでの看取りの知見がどのように「健康長寿・自立支援プロジェクト」に活かされているかわかりにくい。今後は介護領域の産業分野への参入も期待したい。 ・すでに国内保険適用を得ているパネルが複数存在し、全ゲノム解析も研究レベルではあるものの開始される中で、新たに遺伝子パネルの保険収載を目指した開発の必要性について、研究者側の意見をお聞きたい。 ・評価書内に散見される世界展開については、十分な実績には至っていないと思われる。本事業の優先項目ではないかもしれないが、計画書・評価書内の「世界展開」について研究者側の将来展望をお聞きたい。